

南比良樹下神社

じみなみひら
じゅげじんじや

アクセスMAP



拝殿含む全景



樹下神社

南比良樹下神社 (十禅師神社)の由来

社伝に開化天皇歳次四二年（西暦前一九九）比良大峰に降臨靈跡を垂れ山上に社を建てこれを祀ったとある。

また、一説に比良大明神の招請により山王十禅師を勧請したとも伝えられている。

これを按ずるに往古は比良神を産土神と祀っていたが平安前期に延暦寺の勢力により日吉山王の神を祀っていたものと考えられる。



古記に、村上天皇天曆元年（九四七）に、当初の禰宜三和良種の一子太郎丸に神託があつて山城の国北野の地と当社境内に天神を祀るとあり、同境内に天満神社があるが元和八年（一六二二）比良村が南北に別れ、明治五年（一八七二）樹下神社（十禅師神社）を南比良村、天満神社を北比良村の氏神と定め境内を両分した。

なお、元亀の変（一五七〇）一五七二の時、比良山壇陀坊とともに当社も焼亡したが、この兵乱を予知して神宝、古文書等を蒲生郡八幡山丹羽氏保藏主家に預けた後、延宝八年（一六八〇）其曾孫七郎兵衛表辰よりその一部が返送され、神社の宝物となっている。この返進目録も現存している。

《鎮座地》滋賀県大津市南比良九八番地

《主祭神》玉依姫命 《境内社》妙義神社 《神紋》右三ツ巴

《主たる建物》神饌所、神輿庫、小宮（末社）、拝殿、手水舎、社務所、倉庫